第12回 国際ボランティア ワークキャンプ in ASO

12th International Volunteer Work Camp

報告書

2017年8月8日(火)～8月10日(木)

国立阿蘇青少年交流の家

Contents

02 目的／概略

03 スケジュール

04 開会式
基調講演

05 第１分科会「防災」
第２分科会「国際医療」

06 第３分科会「食」
第４分科会「伝統文化」

07 第５分科会「ボランティア」
第６分科会「多分化共生」

08 第７分科会「Self-realization ―自己実現―」
全体交流会

09 未来職道
全体報告会

10 閉会式
お礼のメッセージ

11 アンケート報告
「Smile Station スマイルステーション」

目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営する国際ボランティアワークキャンプ（以下ボラキャンと記述）を、2泊3日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは85名の高校生、10名の韓国・台湾の学生と10名のドイツ・ハイデルベルクの学生、そして5名の日本人大学生がサポーターとして参加しました。分科会活動を中心に様々な活動をとおし交流、お互いの「思い」を共有し、理解し合いながら日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第12回目を迎える今年度のボラキャンでは、「Hello, Discovery ～世界を見つめて行動しよう～」をテーマとして掲げました。ボラキャンでは、学校を超え、高校生とさらに海外からの高校生や留学生と出会い、普段の生活だけでは得ることのできない多様な人との"つながり"が生まれます。そして、受け止め、新しい発見がたくさん生まれます。自分らしさを再発見する機会でもあります。また、グローバル化が進んでいる今、それぞれが世界的な視野から行動することはとても大切なことです。今回のテーマにはこのような思いが込められました。

概略

・実施年月日
2017年8月8日（火）～10日（木）
2泊3日

・実施会場
国立阿蘇青少年交流の家
〒869-2692
熊本県阿蘇市一の宮町宮地6029-1

・参加者
105名
①高校生85名（一般68名／実行員（以下EC）17名）
②海外からの学生（韓国6名、台湾4名、ドイツ・ハイデルベルク10名）

・主　催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
※高校生のECメンバーについては、最終ページに記載。

・構成団体
熊本ユネスコ協会　熊本留学生交流推進会議
税理士法人近代経営　株式会社日本リモナイト
一般社団法人ドリーム・ラボ
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

・協力団体
独立行政法人国際協力機構（JICA）九州国際センター

・後　援
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会
熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

未来職道協力者

(1) **外国から来た子ども支援ネットくまもと**
竹村 朋子さん、大住 葉子さん、甲斐　愛さん

(2) **「@ほ～む」**
大和 賢佑さん

(3) **熊本ユネスコ協会**
橋本 隆介さん

(4) **九州海外協力協会（青年海外協力会OB、OG会）**
大野 章子さん

(5) **Free The Children Japan 熊本**
岩坂 省吾さん

(6) **KLCC（地雷廃絶と支援者の会・熊本）**
田尻 俊次さん

(7) **九州地方ESD活動支援センター**
澤　克彦さん

(8) **日本ワーキングホリデー協会**
藤田 逸郎さん

(9) **ボランティア学習学会**
興梠　寛さん、西尾 雄志さん

(10) **臨床カウンセラー**
加藤 理人さん

(11) **アドバイザー**
興梠　寛さん（昭和女子大学教授）
西尾 雄志さん（近畿大学総合社会学部准教授）

(12) **事務局**
勝谷 知美、白石 昌隆、田上 美奈（KIF）

Schedule

8月8日(火) 〈1日目〉

9:00	一般参加者受付（国際交流会館公開空地） ※八代からの参加者は8:30八代駅で受付
9:30	出発　※八代駅 9:00出発
11:20	阿蘇青少年交流の家（以下、阿蘇青と記述）到着 ※到着後、順次講堂に誘導
11:45	オリエンテーション〈講堂〉
12:00	昼食
13:00	開会式
13:30	基調講演（興梠 寛さん　昭和女子大学教授）
15:00	休憩
15:45	分科会活動① 第1分科会　防災〈音楽室〉 第2分科会　国際医療〈視聴覚室〉 第3分科会　食〈講堂〉 第4分科会　伝統文化〈第8研修室〉 第5分科会　ボランティア〈第6研修室〉 第6分科会　多文化共生〈大研修室〉 第7分科会　self-realization-自己実現-〈中研修室〉
17:15	終了
17:30	夕べの集い
18:00	夕食
19:00	全体交流会（キャンプファイヤー）〈草原ファイヤー場〉
20:30	終了・入浴
22:00	就寝準備
22:30	就寝

8月9日(水) 〈2日目〉

6:00	起床
6:20	クリーンタイム（各部屋の清掃）
6:45	朝の集い
7:30	朝食
9:00	分科会活動②
12:00	昼食
13:00	分科会活動③
17:00	終了
17:30	夕べの集い
18:00	夕食
19:00	未来職道（出展団体12団体）〈大研修室〉
21:00	終了・入浴
22:00	就寝準備
22:30	就寝

8月10日(木) 〈3日目〉

6:00	起床
6:20	クリーンタイム（各部屋の清掃）
6:45	朝の集い
7:00	朝食
8:40	退出チェック
8:45	分科会全体報告会〈大研修室〉
10:30	報告会終了
10:45	クロージングミニ講演会
11:10	閉会式
11:30	昼食
12:50	阿蘇青出発
13:00	阿蘇神社到着・散策
14:00	阿蘇神社出発
15:30	国際交流会館到着・解散
16:00	八代駅到着・解散

「開会式」

報告者：岩本　彩来（八代高校２年）

実行委員の高濱さんの開会宣言でスタートした第12回国際ボランティアワークキャンプ。今年も県内の高校生、ドイツ・韓国の留学生と多くの参加がありました。最初は、みんなとても緊張しているように見えました。

第12回を開催するにあたってのオープニングムービーでは「今から始まるんだ。」と実感すると共に、ボラキャンの歴史を知る良いきっかけになったと思います。そして、実行委員長の周さんの挨拶は、会場全体を和ませてくれました。また、ECと参加者がボラキャン3日間をどのように過ごしていきたいかを考えることが出来たのではないでしょうか。ECの自己紹介では顔や名前を知ってもらうことができ、会場のみんなの緊張がほぐれていました。実行委員の市原さんが今回この阿蘇青で一緒に活動し生活していく上での注意事項を、そして阿蘇青のスタッフの方に施設の使い方を説明していただきこの3日間の生活について参加者に理解してもらうことができたと思います。

開会式を行うにあたり、ECも「これから始まるんだ!」との思いから緊張感がありましたが、一つ一つ進むに連れ緊張がやる気に代わり堂々とした態度で自己紹介等を行うことが出来、第12回ボラキャンをスタートするにふさわしい開会式になったと思います。

「基調講演」　興梠　寛氏（昭和女子大学グローバルビジネス学部特任教授、コミュニティサービスラーニングセンター長）

報告者：市原　月乃（尚絅高校２年）

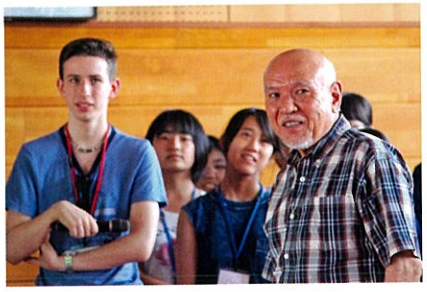
第12回国際ボランティアワークキャンプin　ASO　を開催するにあたり、第一回から基調講演でお世話になっている興梠寛先生から参加者に向けてお話をして頂きました。

まず最初にこのボラキャンの歴史について教えて頂きECの私も知らないこともたくさんあり、勉強になりました。次に、世界人権宣言、人間の安全保障、国連SDGsについてのお話がありました。普段、このようなお話を聞く機会はないので、とても貴重な時間でした。国連SDGsとは持続可能な開発目標のことです。これには17の分野と169の行動目標があります。私はこの多さにびっくりしました。今、世界には様々な問題があります。しかし、このSDGsの持続可能な開発目標を1つずつ達成していくことで問題が解決していくのではないかと思いました。

後半は、ワークショップでした。会場である講堂をいっぱいに使い、様々な質問に対する自分の答えを複数の選択肢から選び、当てはまる場所に移動するというものでした。たとえば、「このボランティアワークキャンプに参加してどんな気持ちなのか」という質問に対して、「ワクワク、楽しい」「ドキドキ、不安」「仕方ないから来ている」「もう帰りたい」という4つの選択肢がありました。進めていくうちに、楽しく交流しながらボランティアについて、改めてよく考えることができたようです。

2泊3日のプログラムの中で1番最初に行われたこの基調講演で、ボラキャンの歴史を知りボランティアについての考えも深めることができ、いいスタートが切れたと思います。

"make a difference"というキーワードを頭にいれ、2泊3日間過ごすことができました。また、オープニングでたくさんの人と交流できたことでその後のプログラムも良い雰囲気で行えました。興梠寛先生、本当にありがとうございました。



第1分科会 参加者16名 「防災」

報告者：上田　桃華（熊本学園大学付属高校２年）

第一分科会の防災では、留学生に正しい日本の防災について知ってもらうことと、日本人には外国と日本の防災意識の違いについて知ってもらうことを目的に話し合いました。

まず最初に自己紹介、そしてアイスブレイクをしました。その次に、導入として、大きな地震を経験したことがない留学生は地震に対してどのようなイメージを持っているのか、また、去年の熊本地震を経験した側から言えることについて班を3つに分け、話し合ってもらいました。留学生の中には全く地震とは無縁の人もいて、体験したことがないものをイメージするのは中々難しかったようでした。その後、1日目の最後に非常食としてよく用いられるアルファ米の試食と避難グッズの紹介をしました。

2日目は最初に班を作り直してから、班別でアイスブレイクを行いました。次に、1日目に軽く話し合った地震について班内で振り返りをしました。1日目の夜に中国の四川省でマグニチュード7の地震があり、班によってはそのことについて話しているところもありました。その後、事前に作っておいたワークシートを使って、地震と津波について深く話し合いました。地震による被害と対応、そして普段からの準備について班ごとにワークシートにまとめてもらいました。また、東日本大震災で大きな被害をもたらした津波についても話し合い、何人かの留学生は津波が2階の高さも越えてくるという日本人の参加者の話を聞いて、とても驚いた様子で言葉を失っていました。地震の話し合いの終わりには、熊本市の地面の揺れやすさを示したハザードマップを班に1枚配布して、気づいたことなどを出し合いました。午後からは、台風による被害と対応、そして普段からの準備について班ごとに、地震と同じようにワークシートを使ってまとめてもらいました。そのあと、地震と台風に共通して考えられる怪我や身に起こりうる危険を出し合って、その中から班で一つ怪我などを選んでもらい、その時の対応などを話し合いました。そしてそれを全体で出し合ったあと、ECから参考として切り傷と骨折の応急処置の仕方を紹介しました。次に2日間のまとめに入りました。各班でまとめたワークシートを全体で発表して、ホワイトボードにまとめました。また、ECで参加者を全体報告会のペアに分けてそのペアで広用紙にまとめる作業を行いました。ペアにすることでコミュニケーションがとりやすくなり、良かったと思います。反省としては、留学生と日本人のコミュニケーションがとれていなかった部分があったから話しやすい空気にしたらより有意義な話し合いができたと思いました。

第2分科会 参加者14名 「国際医療」

報告者：菅村　優（八代高校２年）

第2分科会では世界の医療格差について知り、それを解決するための国際協力について「一緒に医療問題を解決しよう」というテーマで活動しました。

1日目はアイスブレイクのあと日本、パラグアイ、ベトナム、ニジェールの4つの国の医療現場の写真を比較して、問題点を出してもらいました。実際の写真を用いたため具体的な問題点を発見することができ、グループで話し合うことでたくさんの意見が出ました。その後、グループで出た意見を写真ごとに発表し、問題点を分類分けした結果、「環境」「人材」「設備」「交通」「格差」の5つに分けられました。また留学生の言葉を必死に理解しようと翻訳を頑張っている参加者の姿も見られました。

2日目は1日目に出した問題点の解決策を考えました。今回は、高校生の私たちにできることに絞って考えてもらいました。途中、考えが出にくくなったなと思ったのでこの後に行う予定だったクイズを先に行いました。クイズを通して、今世界で活躍している組織、行われているボランティア活動、募金、そのお金の使われ方を楽しく知ることができ、解決策を考える上でのヒントを示すことができたと思います。参加者の間をECが回って一緒に考え、アドバイスをすることができ、ECとしての手ごたえを感じました。その後は、ダイヤモンドグラフを使って、考えてもらった解決策が本当に実現可能かについて話し合いました。意見を発表し合う中で、新たな考えに気づく様子もうかがえました。参加者同士が名前で呼び合い、積極的に活動を行う姿も見受けられ、絆が深まった様子でした。

最後に「○○宣言」と言う形でボラキャン後も活動を続けてもらうため、自分が取り組むことについて宣言を書き発表してもらいました。3日間の活動を通して考えたことを一生懸命形にしようと真剣に取り組む参加者の姿を見て、ECをしてよかったと心から思いました。

この分科会を通しての活動は、ECにも参加者にも忘れられない経験になったと思います。一人でも多くの人が世界の医療問題について興味を持ち、医療問題解決に向けて活動するひとりとして活動を続けてくれると嬉しいです。

最後になりましたが、ボラキャンに関わってくださったすべての方に感謝いたします。ありがとうございました。

第3分科会 参加者16名 「食」

報告者：永水　健登（八代高校２年）

私達、第3分科会「食」のテーマは、食品ロスと食料格差です。身近でありながら、普段はあまり気にされていない食の問題をもっと知ってもらいたい、そして高校生の立場から解決策を考え、実行してほしいという強い気持ちでこの2つをテーマにしました。

8月8日。ボラキャン一日目は、自己紹介とサイコロトークでアイスブレイクを行いました。この時の反省点は2点。日本語を主に使うものだったために留学生が退屈そうにしていたことと、各グループの人数があまりに多すぎて参加者が同じ学校の人としか話さなかったことです。

その後は、食品ロスの具体的な実際の数値や消費期限･賞味期限の違いなどをクイズにしたり、具体例を出して参加者に分かりやすく説明しました。ただ説明するのではなく、内容は難しかったと思いますが、参加者の方々にとっては興味を持つきっかけになったかなと思います。

8月9日。ボラキャン二日目は、最初「ペーパータワー」というゲームでアイスブレイクを行いました。これはあまり言語を必要としないものだったので、留学生にも楽しんでもらえました。

その後は、前日の反省も踏まえて小グループに分かれ、食品ロスと密接な関係がある消費期限･賞味期限について話し合いながら、それらの意味や考え方について意見を付箋に書いていくという方法でそれぞれから出た意見やアイデアを共有してもらいました。

それが終わるとすぐに、カレー作りに取り掛かりました。これは、野外調理所での調理を通して食べ物の大切さを知ってもらうことと、後半の食料格差に意識をつなげることが目的でした。実にキャンプらしい活動で、楽しく学ぶことができました。しかし、「ベジブロス」という野菜のヘタや先端の捨てる部分から出汁をとる作業をするはずでしたが、器具の都合上できなかったことと、まき割りや掃除チェックが予想よりも大変で時間がかかりすぎてしまったことが反省点です。

午後は「フォトランゲージ」で食料格差の現状を知ってもらい、「ワールドカフェ」では、二日間学んだ上で私達が今後心がけることを話し合ってもらいました。カレー作りが長引き疲れ気味だったので、気楽な感じで行ったのが良かったと思います。さらに留学生と交流したり、意見が聞けたのも良かったです。

8月10日。最終日は、参加者のみなさんに学んだことを発表してもらいました。このキャンプでの活動を通じて、自分たちのテーマがみなさんに伝わったことを実感しました。

キャンプ前日まで紆余曲折で準備不足な所もありましたが、多くの方にサポートしていただき、またメンバーで工夫して臨機応変な対応ができたと思います。そして参加者のみなさんに楽しんでもらえたと感じたので成功かなと思います。

私達ECもたくさん学ばせていただきました。ありがとうございました。

第4分科会 参加者15名 「伝統文化」

報告者：岩本　彩来・田中　優香（八代高校２年）

この分科会ではグローバル化が進む今の時代の中で「自分の国らしさ」というものが薄れてきていることを感じるため、もう一度自分の国で伝統的に受け継がれてきた文化を見つめなおし、「どうして伝統文化を受け継いでいかなければならないのか」、「その自国の伝統文化を受け継いでいくために私達高校生でも出来る身近なことはなにか」について参加者に考えてもらい、少しでも自国で受け継がれてきた文化を大切に思う気持ちを育んでほしいという思いで活動を行いました。

1日目は、まず参加者やECとの交流を図ったり緊張をほぐしたりするためにアイスブレイクを行いました。1つ目は円になって1人ずつ英語で自己紹介をしお互いの名前や学校名、何を楽しみにボラキャンに参加したのかなどを知ることが出来ました。初めはみんな緊張した面持ちでしたが、ECが積極的に質問を投げかけると、みんな笑顔で答えてくれました。2つ目にフルーツバスケットを行いました。様々な種類の分類を参加者自身が考えてくれてとても盛り上がりました。アイスブレイクを通して、笑いもうまれるなどとても和やかな雰囲気になりました。

次に、「伝統文化とはどんなものがあるか」という議題で話し合いました。この分科会にはドイツ人と日本人の参加者がいたのでお互いに自国の伝統文化にはどんなものがあり、それはどういうものなのかを発表し合いました。これは3つのグループに分けて行いましたが、どのグループも活発に意見が出ていて驚きました。

2日目はまたアイスブレイクを行った後「なぜ伝統文化を受け継がなければならないか」について考えました。「伝統文化は自分の国らしさがその国の特徴がつまっているから」「過去の失敗を繰り返さないため」「先人の暮らしや考え方を伝えるため」など素晴らしい意見が出ました。次に全員で伝統文化体験を行いました。ここでは日本の伝統文化として紙ずもうやけん玉、折り紙やお手玉、そしてドイツの伝統的な遊びも教えてもらいました。参加者は互いに教え合うことで会話もうまれ、とても楽しそうでした。その後、自国のPRを行い、ドイツ人のビリーさんにドイツの文化や日本の文化、大好きな着物の魅力についてお話してもらいました。改めて日本の伝統文化の良さを感じられるお話でした。

最後にまとめとして私達は伝統文化を後世に伝えるために何が出来るか考え、これから自分がしていくことを宣言してもらいました。それぞれ真剣に考えこれから自分がしていこうと決めたことを力強く宣言してくれました。その姿にこの3日間を通して考えを深め合えたこと、このメンバーで伝統文化を大切に思う気持ちを育むことが出来たことをとても嬉しく思いました。これからもボラキャンで学び感じたことを忘れずに生活してほしいです。

第5分科会 参加者14名 「ボランティア」

報告者：毎床　華音（松橋高校２年）

私ははじめてECをさせて頂きました。

１日目は、第5分科会ボランティアでは、まず最初に分科会で仲良くなってもらうためにアイスブレイクバスデーラインをしました。話さずに誕生日順に並んでもらいました。そして誕生日の順番ごとに班を作ってもらい、「参加のはしご」のワークをしようと考えていましたが、バスデーラインをした後に自由に好きな所に座ってくださいと言ってしまったので、計画通りにいかず後悔しました。

次にしたことは「参加のはしご」です。「参加のはしご」というのは、参加を「大人を巻き込む参加」から「お喋り参加」まで8段階に分けてボランティアでは「子どもがやりきる参加」を目標とすることをみんなで確認しました。参加について分科会でしっかりと話し合えたので良かったと思いました。

2日目は、急きょ一人で乗り越えなければならない場面になりました。ですが、大学生サポーターや事務局のサポートにより不安がやわらげられました。。

自分が発表する時には紙に書いていたこともアドリブで違うことも話せたので自分の中でやり切ったなあっと思いました。2日目の最後は報告書作りでは第5分科会で皆んなで協力して作り上げていたので良かったと思いました。

3日目は、報告書の発表では、多くの参加者がノートに言うことをメモしておくなど、準備されており良かったと思います。1日目から3日目を通して、1日目はすんなりと終わりましたが、2日目は不安しかありませんでしたが、後々思えば私は頑張ったなあっと思いました。この実行委員になったことによって色々なところからきた高校生と少しでも仲良くなれたのも良かったと思いました。　夏休み最高の思い出になりました。

第6分科会 参加者14名 「多文化共生」

報告者：前川　福美（東稜高校１年）

私たち第6分科会のECの多くは外国にルーツを持つ高校生でした。今回「多文化共生」分科会では、私達が日本に来てから学んだ色々なことを題材に、参加者の皆と一緒に、「多文化共生」の意味、ホームタウン、文化の違いについて話しました。

一日目は、みんなでバーンガをしました。バーンガは無言でするゲームです。ルールもグループごとに違います。話さないということは各国の言葉が通じないことを表しています。ルールが違うことは、各国の文化や生活習慣が違うことを理解するためです。その後、やさしい日本語の話し方など、外国人とのコミュニケーションの取り方についての講話を聞きました。皆は、どうすれば外国の方とうまく交流できるか、考えてくれました。

二日目には、最初に「多文化共生」についてみんなが思いつくものや、その理解について一人一人に発表してもらいました。その後、ECの下川君がホームタウンについて発表しました。そして、参加者が故郷や町のことを伝えて、みんなのホームタウンを知ることができました。次に、日本と中国の学校の年間行事や、スケジュールの違いをさがし、気になった行事には質問をしたり楽しく話をしました。午後には各国の学校のクイズを行ったり、「外国ルーツ」の説明もしました。そして、ECや一般参加者の中の外国ルーツを持つメンバーで、いやなことや、うれしかったこと、いろんなことを発表しました。参加者みんな、真剣に聞いてくれました。私たちが悩んだことを言うと、少しアドバイスもくれました。最後に、「多文化共生社会を作るためには」について考えました。最初はなかなか皆さん書けませんでしたが、ECたちがアドバイスをしたり、一緒に内容を振り返ったりして、「多文化共生社会」に向けての私たちにできることを書きました。「あたり前を勝手に作らず、お互いの人種と文化をよく知り理解する」など、たくさんの案が出てきてとても嬉しかったです。

私は初めてのボラキャンで何もわからずにECをしました。本番ギリギリまで、内容をうまくまとめることができなくて本番中は焦ってしまいました。参加者のみなさんはこの分科会を通して、少しでも同世代の外国人について理解してくれたと思います。最後まで心を一つにして、みんながよく考えてくれました。参加者の皆さん、オブザーバーの先生方、大学生サポーターの皆さん、ありがとうございました。みんながこの分科会をよかったと思っていれば、この活動は有意義であったと思います。

第7分科会 参加者15名 「Self-realization ―自己実現―」

報告者：坂野　滉太（熊本高校１年）

私たち第7分科会では「自己実現」をテーマとし、一人一人が将来どのような人間になるかを考えていきました。

1日目は「さいころトーク」と「山手線ゲーム」というアイスブレイクからスタートしました。「山手線ゲーム」では、お互いの名前を覚えることができたので雰囲気が和むきっかけとなり、参加者同士での会話が始まりました。その後の分科会ガイダンスでは、「自己実現」とは何かということを考えていきました。アメリカの心理学者"マズロー"の欲求5段階説を取り上げたり、エスニックジョークを取り上げたりして自分の中で「自己実現」に対する考え方を生む時間になりました。また、ECの考えたプロセス"自己実現の木"を紹介して、2日目どのような活動をして、何を目指すかを理解してもらいました。

2日目は初めにグループミーティングをしました。国による価値観や考え方の違いを知るために「食事」「時間の感覚」「ジェスチャー」「人とのかかわり方」という4つのテーマに分け、それぞれどのような場合に国による違いがあらわれるのかをいくつかの具体例を通じて考え、話し合いました。特にジェスチャーでは、世界の様々なジェスチャーを実際にやってみることで、1人1人個人の当たり前が世界の当たり前とは違うということを知る良い機会となりました。2日目の午後は『国際社会での誤解』というお題から考えられるもの、出た意見からさらに連想できるものをすべて紙に書き出し5つのグループに分けました。どのグループに入れるべきか悩みながらも、どの参加者も懸命にグループ分けをしてくれました。その後、5つのグループを"争いの原因""政治･経済""自然環境""倫理観""文化"と名付け、それぞれの誤解をなくすための解決策を発表し合いました。国際社会だからこそ起きるたくさんの誤解は双方ともに自己実現を達成することが困難なことを踏まえ、多角的な視野から解決策が出されていました。最後に、2日間で考えてきた自分なりの自己実現を達成するために、これからどのような行動をとっていくかを宣言書に書き、発表し合いました。

参加者が自分なりの自己実現を発見し、具体的な行動へと結びつけていく時間となり、とても充実した分科会となりました。参加者のみなさんがこれから何か壁にぶつかったときに乗り越えるための材料の1つとなってもらえればいいなと思います。3日間ありがとうございました。

「全体交流会」

報告者：田中　優香（八代高校２年）

夕食をとり、あたりも少しずつ暗くなってきたころ、外の広場に移動し全体交流会を行いました。まずは分科会対抗でボールパスゲームを行い、各分科会の時間に深めた団結力を発揮し、競い合いました。ボールの代わりに使用した風船がいくつも割れるなどハプニングもありましたが、どの分科会も一生懸命に活動していてとても楽しくできて良かったです。

そのあと実行委員長扮する女神様を中心にキャンプファイヤーの点火式を行いました。EC全員で女神様の通り道を作り、ゆらゆらと揺れる火を持って女神様がゆっくりと歩いてくる姿はとても幻想的で誰もが見とれていました。まきに火がついて燃え上がる炎に参加者全員が感激しました。

次に、燃え盛る炎の周りで全員でポニーをしました。ポニーとは、みんなが1つの輪になって周りの人は歌を歌い、輪の中に何人かの人がリズムに乗って踊りながらスキップしていきます。そして歌に合わせて止まって、止まった位置の前の人とダンスをし、ハイタッチしながら位置を交代するゲームです。最初に各分科会ごとにECが参加者にダンスを教え、ECみんなでお手本を見せました。初めは参加者たちも照れくさそうにしていたり、とまどったりしている様子でしたが、ECが恥を捨てて全力でポニーを楽しむ様子を見せることで、参加者もだんだんとノリにのってきました。最後には全員が大きな声で歌い、最高の笑顔で踊り、とても楽しんでくれていました。私は全体交流会を取りまとめる担当で、全体交流会がこのボラキャンの中で参加者全員の交流を深められるチャンスであり、これからの活動が上手くいくかどうかを左右させるとても重要な役割を担っていることを十分に理解していたので、初めのほうは、「上手く盛り上げられなかったらどうしよう」「絶対に成功させなくては」と緊張していました。でも、そんな状況で全体交流会を進めてもきっと参加者も楽しめないと思い、「まずは自分が全力で楽しもう」と思い、恥を捨てて全力で楽しみました。そして、みんなの楽しそうな姿を見て、とても嬉しかったし、頑張って本当に良かったと思いました。

様々な国の人々が集まる中でどうしても言葉の壁というものはありましたが、この全体交流会では話す言葉の違いなど関係なしに、みんなが一体となって楽しむことが出来たので良かったです。

「未来職道」

報告者：林　　直弥（松橋高校２年）

2日目の夜には未来職道を行いました。未来職道では様々な分野で活動されている方々のお話を自由に聞いて回ることができます。今回はKLCC･熊本ユネスコ協会･熊本ユニセフ協会･九州海外協力協会･フリーザチルドレンジャパン熊本･九州地方ESD活動支援センター･心理カウンセラー･日本ワーキングホリデー協会･外国からきた子ども支援ネット、@ほーむ･ボランティア学習協会･Smile Station、ボラキャンECの合わせて12団体の方々がお話をするために来てくださいました。各団体の紹介から始まり、その後興味がある団体のブースに移動して様々な活動家の方々のお話を聞きました。最初はどの団体の話を聞くか迷っている人もいましたが、参加していただいた団体の中には普段お話を聞く機会のないような団体もあり、参加者の皆さんも興味を抱いている様子でした。様々な団体のブースを回る中で、参加者の中からも「これまで知らなかったことをたくさん知れてうれしい」、「ここで学んだことを学校の友達にも伝えたい」といったことを言っている人もいました。また日本ワーキングホリデー協会ブースでは、英語で会話しようとする参加者の皆さんの積極的な姿勢も多く見受けられ、とても有意義な時間になったのではないかと思います。私はこの活動で物事を正しく理解し、持続的にできることを探すことの大切さを感じることができました。

未来職道でのお話を通して参加者の皆さんもこれまで知らなかった新たな一面に触れることができたりと多くの発見があったと思います。そしてここで学べた事は今後の学校生活、高校生としてこれから進路を考えていく際にもより幅広い選択ができるきっかけにもなるのではないでしょうか。

今回このような機会を設けてくださった事務局の皆様や会場設営等のサポートをしてくださった大学生サポーターの皆様、そしてお忙しい中貴重なお話をしてくださった各団体の皆様本当にありがとうございました。

「全体報告会」

報告者：上田　桃華（熊本学園大学付属高校２年）

3日目に大研修室で各分科会のまとめを発表する全体報告会がありました。大研修室に7つのブースを設け、発表5分、質疑応答2分の時間配分で行いました。前日に分科会ごとに2日間のまとめを広用紙にまとめてもらったものを、各ブースに掲示しました。

発表が始まる前の時間は分科会ごとでの最終確認を行いました。私が司会だったのですが、最初に暗めに入ってしまったこともあり、会場の空気が硬いまま始まってしまいましたが、だんだんと緊張がほぐれてきているのが感じられました。

分科会によっては実際に、けん玉やお手玉などを体験しているところもあり、参加者たちが楽しそうに体験していました。また、留学生同士でペアを組んでいるところもあり、通訳をしてもらうなど様々でした。

報告会が始まってすぐは全体的に静かで、質疑応答のときもそこまで積極的に質問をしているようには見えませんでしたが、進んでいくにつれ、質問をしている人が多くなっているように思えました。

全ての発表が終わった後は、分科会ごとでの意見交換会でした。意見交換会では、発表したときに出た質問や意見を出し合いました。また、発表が早く終わって時間が余っていたり、質疑応答の時間が足りなかったりしたところもあったようですが、発表が早く終わったので自分たちで質疑応答に移ったというところもありました。

全体が終わってからのECの反省会で出たことは、まず、ECは少なくとも1人は自分のブースに残っておいた方がいいということと、質問は最初にECがいうと後から参加者も出しやすいということ、そして、発表するときに通訳を挟むと発表時間が足りなくなるということです。また、これは司会に言えることなのですが、司会のテンションで場の雰囲気が大きく変わるということがわかったので司会は声のトーンを上げるなど工夫が必要だと思いました。

「閉会式」

報告者：髙濵　葵（尚絅高校２年）

3日間の最後、閉会式は、大研修室で行われました。

最初に、西尾先生からのクロージングミニ講演会があり、貴重なお話を聞くことができました。その後に、参加者に書いてもらったアンケートを回収しました。良い所や、改善する所があると思うので、良い所はこれからに生かし、改善する所は、来年までに改善していきたいと思います。

そして、Justin Bieberの「What do you mean?」の曲に合わせて、ダンスを踊り、ECのダンスリーダーが場を盛り上げてくれました。参加者や参加者の周りにいたECも手拍子をし、その場が一つにまとまった気がしました。その流れから全体での写真撮影をしました。一生思い出となる記念の写真を撮ることができたので、とても嬉しかったです。そして、ECのみんなで、ボラキャンの主題歌「キセキの旅」を合唱しました。あまり練習する時間がなく、完璧に歌うことはできませんでしたが、ドイツの参加者の皆さんがウェーブをして下さって、国関係なく、絆で繋がった瞬間でした。

最後に、下川君の閉会宣言で閉会式が終わったと同時に、3日間のすべての日程も終了したことを実感し、とても悲しくなり、初めに戻りたい気持ちでいっぱいになりました。終わった後に気付いたのですが、参加者の感想を発表する流れを立てていましたが、やることを忘れてしまっていました。しかし、終わった時の参加者の表情を見ると、出会った時よりも表情がにこやかになった気がしたので、ECとして安心しました。

こうして、明るく、楽しい雰囲気で終わることができたのは、やはりEC、大学生ボランティアの皆さん、支えて下さったオブザーバーの方々をはじめとする事務局スタッフの皆さん、そして参加者のみんなのお陰です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!

「お礼のメッセージ」

実行委員長：周　婷玉（熊本高校２年）

昨年の国際ボラキャンは地震の影響で会場変更での開催となりましたが、今年は阿蘇青で予定通り行うことができました。

ECの私たちにとっては、ボラキャンの三日間は、短い時間でしたがとても貴重な経験でした。半年間の準備期間をずっと支えて下さった事務局、熊本市国際交流振興事業団の方々をはじめ、オブザーバーの方々、大学生サポーターの皆さん、そして大会会場の阿蘇青のスタッフの方々にもたくさんお世話になりました。お陰様で自分たちが行いたいことに没頭出来、自ら考える力を身に付けることが出来ました。

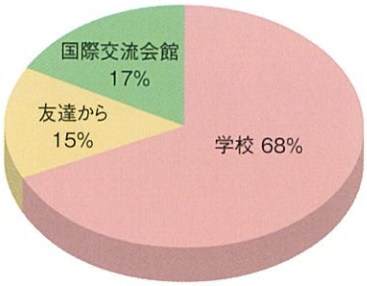
今年のテーマは「Hello Discovery～世界を見つめて行動しよう～」で、「出会いで発見する」という意味も込められていました。ECは半年間当日に向けての準備をしてきました。参加者の皆さんが、この大会に参加したことで新な出会いや発見、学びそして喜びを感じていただけたなら幸いです。このボラキャンで知り合った人とさらに仲良くなり、またここでの経験を今後生かしてもらえたらと思っています。

ボラキャンを暖かく支えてくださった方々、そして参加者の皆さん、ありがとうございました。

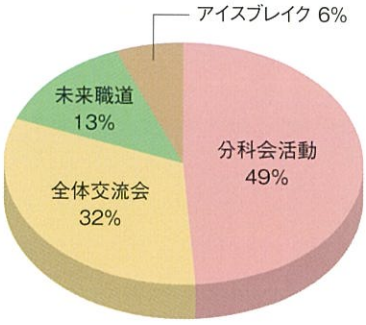
アンケート報告
Questionnaire

回答数72人（全参加69%）

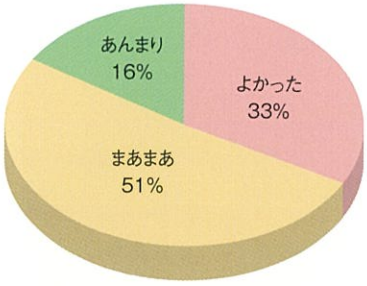
ボラキャンのことをどこで知りましたか？



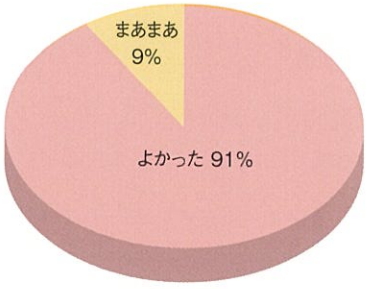
一番印象に残ったことはなんですか？



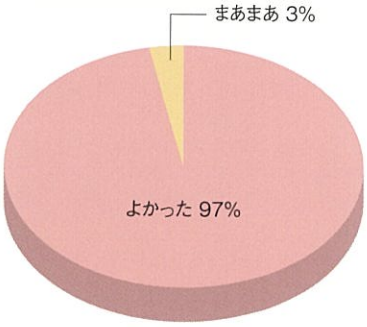
基調講演はどうでしたか？



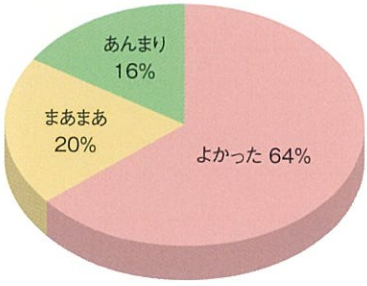
分科会活動はどうでしたか？



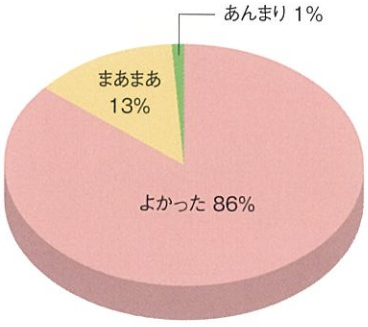
全体交流会はどうでしたか？



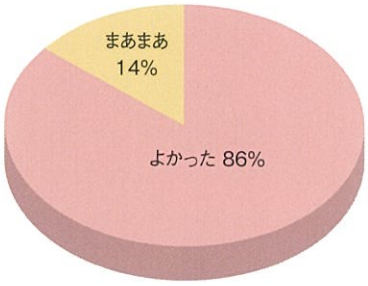
未来職道はどうでしたか？



ECの対応はどうでしたか？



全体を通して今回のキャンプはどうでしたか？



★Smile Station★

私たち「スマイルステーション（通称スマステ）」は、高校生で高校生ボランティアの輪を広げるという目的のもと毎月第一土曜日の午後2時から熊本市国際交流会館で活動しています。

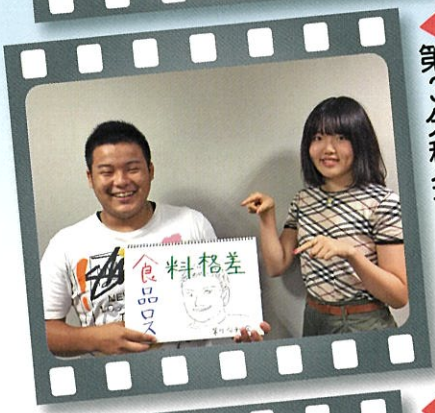
現在活動としては、ボランティアに関する情報交換や身の回り、高校行事等の情報の共有を行っています。

これからは、これまでの高校生の目線で上通のお店を紹介している「城下町なう。」の情報の更新や自分たちでボランティア活動を企画し活動したり、スマステとして高校生の為のイベントを考えています。

何かボランティア活動をしたいと思っている人、他の高校の友達を作りたいと思っている人は、気軽に参加してみて下さい。

第1分科会

第2分科会



第3分科会

第4分科会

第5分科会

第6分科会

第7分科会

第12回
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

高校生実行委員会メンバー

《実行委員長》	周	婷玉	熊本高等学校(2年)
《副委員長》	下川	嵩暉	熊本学園大学付属高等学校(2年)
《副委員長》	福田	莉万	熊本高等学校(2年)
	上田	桃華	熊本学園大学付属高等学校(2年)
	林	直弥	松橋高等学校(2年)
	岩本	彩来	八代高等学校(2年)
	大隈	翔太	熊本工業高等学校(2年)
	高濱	葵	尚絅高等学校(2年)
	毎床	華音	松橋高等学校(2年)
	永水	健登	八代高等学校(2年)
	市原	月乃	尚絅高等学校(2年)
	菅村	優	八代高等学校(2年)
	田中	優香	八代高等学校(2年)
	前川	福美	東稜高等学校(1年)
	坂野	滉太	熊本高等学校(1年)
	王	柏元	必由館高等学校(1年)
	ハーリントン アレクサンダー		菊池高等学校(1年)

事務局
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
熊本市中央区花畑町4番18号　熊本市国際交流会館
TEL：096-359-2121

■ 構成団体／熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト
一般社団法人ドリーム・ラボ、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
■ 協力団体／独立行政法人国際協力機構九州国際センター
■ 後　　援／熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社
表紙&裏表紙イラスト／ハーリントン アレクサンダー（菊池高等学校1年）
平成29年度 子どもゆめ基金助成事業